

冬期のマシン油乳剤散布によるチャ赤焼病の発病助長とその抑制技術

- ・チャトゲコナジラムの防除には冬期のマシン油乳剤散布が効果的ですが、チャ赤焼病の発病が助長される場合があります。
- ・あらかじめ銅水和剤を散布して、3～7日後に98%マシン油乳剤100倍を散布する防除法を用いると、赤焼病の発病抑制が可能です。

チャ赤焼病初発の冬の茶園で・・・

マシン油乳剤だけを散布した場合・・・



赤焼病が激発、感染葉が落葉、一番茶が減収します

銅水和剤散布3～7日後にマシン油乳剤を散布すると・・・



赤焼病の発病抑制、一番茶の安定生産が可能になります

＜防除のポイント＞

- 1) 防除適期は、秋整枝直後ないしは萌芽の5週間以上前です。
- 2) 防除に用いる銅水和剤はドライフロアブル剤が防除効果に優れます。
- 3) 98%マシン油乳剤が本法に適します。
- 4) 赤焼病の発病が目立つ場合と、幼木については、防除を優先し、マシン油乳剤は散布しないで下さい。

詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。

(国研)農研機構 果樹茶業研究部門 研究推進室(広報担当) Email: kaju-koho@ml.affrc.go.jp